

## 第4回 論説・編集委員懇談会 開催

平成 27 年 3 月 19 日(木)、JISA 会議室にて、「論説・編集委員懇談会」が開催された。

我が国経済社会における IT の重要性や、情報システムを構築・運用する情報サービス産業の役割はますます大きくなっている。しかしながら、そのことに対する国民の理解は必ずしも十分とは言えないのが現状である。

このような認識のもと、社会への情報発信の強化に向けた取り組みの一つとして、新聞社・通信社等の論説委員・編集委員と JISA 正副会長が社会における IT のあり方や業界の使命・役割などについて意見交換を行う場として、平成 24 年度に「論説・編集委員懇談会」を創設した。今回は 4 回目の会合であり、新聞社の論説委員、編集委員 2 名が参加した。一方、JISA 側からは正副会長及び関係者・事務局、計 13 名が参加した。

冒頭、浜口友一会長より挨拶があり、「IoT やビッグデータが社会に大きな影響を与えつつある。この分野では欧米が進んでおり、日本も対応していかななくてはならない」と述べた。

引き続き、横塚裕志副会長より今回のテーマ「新しい IT を活用した『デジタルビジネス』はどのように経済社会を変えるか(現状と今後)」「デジタルビジネス推進上の課題(人材育成、セキュリティ、法制度等)」について問題提起があった。今までは業務効率化に IT が活用されてきたが、IoT により第 4 次産業革命の時代に入り、これからは本業そのものが IT により大きなインパクトを受けることを、保険業の事例に基づき指摘した。また、IoT 時代は、国家間で産業界の覇権を争う時代であり、政府主導で取り組んでいかななくてはならないと述べた。さらに、このような問題意識に基づき、国・政府へ期待することとして、「『デジタル・ビジネス』を实践する経営力・組織能力を創出するための取り組みの強化」「世界標準の産業別システム基盤の構築に向けた取り組みの強化」「IT ベンダーによる新ビジネス創出活動に対する取り組みの強化」「増大するサイバー攻撃

の脅威に抗するセキュリティ対策の強化」を挙げた。

その後はフリーディスカッションが行われ、「ネット系企業その他業種（金融等）への進出により業際が不明確になる中で本業をどう位置づけるか」「デジタルイゼーションにおける国・政府の役割は何か」「縦割り組織を超えた横断的な取組の重要性」「イノベーション受容における日本の文化的特徴の影響」「良い人材は減点主義の日本企業ではなく加点主義の海外企業に行ってしまうこと」「研究開発について日本ではエビデンスが求められるが海外では起業が求められること」等について意見が出された。また、「日本では課題認識・要因分析まではできているが、重要なのはそれをアクションにつなげること」との指摘もあった。